

第1問

次の【資料】にもとづき、連結第2年度（×2年4月1日から×3年3月31日）の連結精算表を作成しなさい。P社は×1年3月31日にS社の発行済株式総数の60%を416,000千円で取得して支配を獲得し、それ以降S社を連結子会社として連結財務諸表を作成している。

【資料】 連結に関する事項

1. 支配獲得時（×1年3月31日）におけるS社の純資産項目は、資本金400,000千円、資本剰余金140,000千円、利益剰余金120,000千円であった。
2. のれんは支配獲得時の翌年度から10年間にわたり定額法により償却を行っている。
3. 連結第1年度（×1年4月1日から×2年3月31日）において、S社は当期純利益30,000千円を計上した。なお、配当は行っていない。
4. 連結第2年度（×2年4月1日から×3年3月31日）において、S社は当期純利益95,000千円を計上し、20,000千円の配当を行った。
5. 連結第1年度よりP社はS社に対して売上総利益率20%で商品を販売しており、連結第2年度におけるP社のS社に対する売上高は340,000千円であった。また、S社の期首商品のうち50,000千円および期末商品のうち80,000千円はP社から仕入れた商品であった。
6. 連結第2年度末においてP社の売掛金残高のうち140,000千円はS社に対するものであった。なお、P社は売掛金の期末残高に対して4%の貸倒引当金を設定している。
7. 連結第2年度においてP社はS社より受け取った約束手形200千円を、連結グループ外部の取引銀行で割引していた。なお、期末現在この手形は未決済である。
8. 連結第2年度においてS社は所有していた土地（帳簿価額185,000千円）をP社に200,000千円で売却した。なお、P社は期末現在この土地を所有している。

連 結 精 算 表

×3年 3月31日

(単位：千円)

表 示 科 目	個別財務諸表		修正・消去		連結財務諸表
	P 社	S 社	借 方	貸 方	
諸 資 産	3,146,000	816,000			
売 掛 金	450,000	245,000			
貸 倒 引 当 金	△ 18,000	△ 9,800			△
商 品	200,000	98,000			
S 社 株 式	416,000	—			
土 地	200,000	—			
の れ ん	—	—			
借 方 合 計	4,394,000	1,149,200			
諸 負 債	1,000,000	89,200			
支 払 手 形	100,000	50,000			
買 掛 金	234,000	145,000			
短 期 借 入 金	400,000	100,000			
資 本 金	1,200,000	400,000			
資 本 剰 余 金	400,000	140,000			
利 益 剰 余 金	1,060,000	225,000			
非 支 配 株 主 持 分	—	—			
貸 方 合 計	4,394,000	1,149,200			
売 上 高	2,400,000	850,000			
売 上 原 価	△ 1,150,000	△ 570,000			△
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	△ 900,000	△ 214,000			△
の れ ん 償 却	—	—			△
営 業 外 収 益	50,000	24,000			
営 業 外 費 用	△ 20,000	△ 10,000			△
固 定 資 産 売 却 益	—	15,000			
当 期 純 利 益	380,000	95,000			
非 支 配 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益	—	—			△
親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益	—	—			
資 本 金 当 期 首 残 高	1,200,000	400,000			
資 本 金 当 期 末 残 高	1,200,000	400,000			
資 本 剰 余 金 当 期 首 残 高	400,000	140,000			
資 本 剰 余 金 当 期 末 残 高	400,000	140,000			
利 益 剰 余 金 当 期 首 残 高	840,000	150,000			
剰 余 金 の 配 当	△ 160,000	△ 20,000			△
親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益	380,000	95,000			
利 益 剰 余 金 当 期 末 残 高	1,060,000	225,000			
非 支 配 株 主 持 分 当 期 首 残 高	—	—			
非 支 配 株 主 持 分 当 期 変 動 額	—	—			
非 支 配 株 主 持 分 当 期 末 残 高	—	—			